

「ピア・レスポンス」を取り込んだ授業の試み

Trial program by “Peer Response”

留学生センター 教授 大石寧子

Abstract :

I introduced “Peer Response” in the “Reading and Writing Papers” class in 2006 and 2007. Before starting to work, we arrange the ideas, and then we go over them over and over again, and finally we complete papers. There is no doubt that we have a lot of pressure in this procedure. It is even harder to write papers in the foreign language. I introduced the way to the students that firstly they speak out their themes, and secondly they started to write, and from time to time they discussed what they had written each other to get to know more about what they wanted to write, so I introduced “Peer Response.” I would like to review and examine the class.

1. はじめに

「レポートを読み、書く」というクラスで2006年度、2007年度と「ピア・ラーニング」の中から「ピア・レスポンス」を取り込んで授業を行った。人は書く作業の前に、自分の頭の中で試行錯誤を重ね、何回もの推敲を重ねて、論文やレポートにしていく。この間心理的にかなりの負担がかかること否めない。ましてや外国語で論文を書くということは、かなりの負担が伴うものである。留学生にとってその負担を軽くする方法として、自分のテーマについてまず口頭で、次に書く作業へ、という流れを作りその流れの随所で学習者同士が互いのそこまでに書いたものについて感想や気づいたこと等を言い合うという方法をとった。そういう意味での「ピア・レスポンス」を授業に取り入れ、実施した。ここでは、その授業について振り返り、考察を重ねたい。

2 クラスにおける取り込み方

2006年度後期に共通教育の「日本語・日本事情」の中の1つのクラスで、この試みを実施した。当該クラスは、大学生活の中の基礎的部分であるため、今後レポートや論文を書く機会が多くなることを考慮し、「ピア・レスポンス」の取り込みを決めた。各自、テーマを決めて論証型のレポートを書くことを最終到達とした。

2. 1 コースデザイン

授業は、16コマ（1コマ、90分）とし、1年生が多いためクラスの流れに乗って順次こなしていけば最終的には「レポートができていく」という流れを設定した。

- ① オリエンテーション及びレディネス調査：本クラス説明、受講学生の日本語能力及び背景調査
- ② 大学生にとっての文章、である体：文法、文型の復習
- ③ レポートと論文の違い、レポートの形、評価観点

- ④ テーマ決め：思考・構想マップ作り
- ⑤ 自分の構想マップを振り返る：ピア・レスポンス、テーマ決定
- ⑥～⑧ 情報集め集め方：インターネットの利点、問題点
 情報検索方法学習：図書館での学習
 情報カードの作り方：これ以降各自で続行
- ⑨ テーマの絞り込み、レポートの目標設定：ピア・レスポンス
- ⑩ レポートの構成：序論、本論、結論
- ⑪～⑫ アンケートの作成・集計方法
 自分のアンケートについて振り返る：ピアレスポンス
- ⑬～⑮ グラフについて：グラフの種類、テーマを支える効果的なグラフとは
 引用・参照方法と引用・参考文献の明示の仕方
- ⑯ 各自のレポート提出、自分の提出までの流れを振り返る。
 「情報カード作り」以降は、そのコマ完結ではなく、平行して各自のテーマにあわせて、自分の作業は自分のペースで行った。

2. 2 クラス構成

クラスは、以下のような学生で構成されていた。

S：学生 (student)

学生番号	学年	国籍	日本語学習歴	備考
S 1	2年	中国	日本語学校で2年 大学で1年	
S 2	1年	中国	日本語学校で2年	途中で棄権
S 3	1年	中国	日本語学校で2年	
S 4	3年	中国	日本語学校で2年 大学で3年	
S 5	1年	中国	日本語学校で2年	
S 6	2年	中国	日本語学校で2年 大学で1年	
S 7	1年	中国	日本語学校で2年	
S 8	3年	中国	大学で3年	交換留学生のため母国での学年
S 9	3年	中国	大学で3年	交換留学生のため母国での学年
S 10	3年	韓国	高校で2年 大学で3年	交換留学生のため母国での学年
S 11	3年	韓国	大学で3年	交換留学生のため母国での学年
S 12	3年	韓国	大学で3年	交換留学生のため母国での学年
S 13	1年	中国	日本語学校で2年	
S 14	2年	中国	高校で3年 大学で1年	途中で棄権
S 15	1年	中国	独学で2年半	

2. 3 クラスの状況

いくつかの問題が見られたが、問題の1つは、意欲と日本語力に関してが大きいと思える。当初の予定より受講者数が多く、日本語力の差も目立った。交換留学生は、学習意欲、日本語力共に高く、1年生の日本語力との間に差が目立った。そこでピア・レスポンス時は、S8～S12までと1年生以外から軸となる学生を毎回5人決め、3人の小グループで行った。しかし発話者がいつも軸となる学生になりがちで、他の2人に依存度の高さが見られた。また3人グループのため2人でレスポンスが行われているとき、3人目がそこに加わろうとはせず傍観者になる状況も見られるようになった。そのため軸となる学生は、だんだん発話を控えるようになり、全体として低下の方向に向かった。そこで後半は、日本語力・意欲の高さでグループを組んだところ、日本語力が高く意欲のあるグループは、活発なやり取りが見られ、互いにそこから得るものが多いことが見て取れた。しかしそれに反した約半数の学生からなるグループは、何をどうしたらいいのかわからず、教員がそれらのグループを飛び回り、促す結果となってしまう、ピア・ラーニングの特徴の一つである仲間との協働を通して自分自身を発見するところからは遠い結果になってしまった。日本語力や学習意欲の低さに加え、アルバイトによる疲れ等から準備や自分で作業が全くなされず、ただクラスに来るだけということが大きく響いている。作業の意図が汲み取れないため、レポートテーマもなかなか決まらず、最終的に時間不足になり、十分な資料が用意できなかった。

また他の問題は、クラス構成からわかるように学生全員が東アジア出身という点だと思える。館岡(2007)は、「東アジア諸国の学習者にとっては、ピア・レスポンスの授業は自分達の学習感とは大きく異なる学習であるために、戸惑いや強い抵抗を感じる人が多いのではないか」と述べているが、本クラスにおいても学生たちの戸惑いが大いに見られた。

レポートのテーマは以下のようなものである。

学生番号	レポートのテーマ
S 1	環境と人間のために自動車に対する認識がかわるべきである
S 3	詐欺事件が多発し、消費者はインターネットで買い物をやめるべきか
S 4	留学するのは価値がある
S 5	大学時代にアルバイトをすべきか
S 6	環境問題の解決に食品トレー・プラスチック容器のリサイクル率を高めるべきか
S 7	少子化の影響を最小限に受け止めるには政府が安定な社会作りをすべき
S 8	結婚後、子供を生むべきだ
S 9	現代の人間は結婚すべきか
S 10	現在の大学授業は変わっていくべきか
S 11	人工妊娠中絶を禁止するべきか
S 12	韓国の早期留学ブームについて —早期留学を減らすためには早期留学に関しての関心を持つべき
S 13	家庭内暴力を減らすために、伝統的な家族間が変わるべきだ
S 15	総合学習はつづけるべきか

*タイトルは、原文のまま

3 コースデザインの見直し

2007年度の場合は、交換留学生在が4名という小クラスで行われた。クラスの到達目標は前年度と同様であるが、前年度の課題・反省を踏まえ、また前年度のアンケートに「今後の授業に役に立つと思うが自分にとっては難しかった」との声も尊重して、見直しを図った。日本語力・意欲に差のあるクラスの場合は、意欲を高めることがラスワークに大きく影響を与えると思われるので、クラスの中のコミュニケーションや絆を高め、自分に適したテーマが選べるよう、書く作業に至るまでのステップ作りや細かい配慮を盛り込んで行うこととした。クラス構成は、以下のようなものである。

学生番号	学年	国籍	日本語学習歴	備考
S 1	3年	中国	高校で1年 大学で3年	交換留学生的のため母国での学年
S 2	4年	韓国	高校で2年 大学で3年	交換留学生的のため母国での学年
S 3	4年	韓国	高校で2年 大学で3年	交換留学生的のため母国での学年
S 4	4年	韓国	大学で3年	交換留学生的のため母国での学年

3. 1 前段階となるクラスワーク

コースデザインは、前半・後半と大きく2つの構成にし、難易度をつけた。学生数が4名と少ないので、細かいケアができると判断し、まず全体の三分之一を「メールの書き方」にあて①レポートの構成となる「序論・本論・結論」の基本を最小限の枠で学ぶ②ピア・レスポンスの慣らし経験とレクラスの中にその環境作りをする③文法の見直し期間とする④次の「レポート書き」までに各自興味のあるテーマ探しの時間が設けられるよう考慮した。

メールのテーマを①誘い②お願い③お礼④お詫び⑤断り⑥問い合わせとし、クラスの中でその特徴、形式、文法の見直しを行い、実際の作成を宿題として教員にメールの添付で送付する。そしてそれを次の授業で、いいところ、直したほうがいいところ、またそれに対してのアドバイス等を皆で言い合うこととした。回を重ねるごとに、気のおけないムードが生まれて、このピア・レスポンスのやり方にも慣れ、学生それぞれが自分では気がつかなかったところや適切な表現方法などを積極的に取り込み、メールの技能に向上がみられるようになった。

3. 2 「レポート書き」

前段階となるクラスワークが順調に進み、次の目的である「レポート書き」にスムーズな移行ができた。また「書く」作業の前に、実際の「レポートや論文を読む」時間を設けて、形式・論理の展開等を分析し、前年度の学生のレポートをこの分析に従って検討した。今年度の学生の日本語力や意欲・知識やアルバイトが必要でない安定した生活を基に、前回の「流れ」の中でいくつかのステップを整理して、行った。

- ① オリエンテーション、レディネス調査
- ②～⑤ メールを書く
- ⑥～⑧ 論文を読む
- ⑨～⑯ レポートを書く

⑩ 振り返り、提出

前年度は、論証型レポートということでテーマを背伸びして決めた学生がいたので、今回は前半から興味のあることに絞るようにし、思想・構想マップの段階から活発なピア・レスポンスが見られた。全体に日本語力が高く、ピア・レスポンスにおける協働の意味も十分把握していることが感じられた。しかし4人という少人数のため、ピア・レスポンスを重ねるうちに相手の言うことが予想されるようになってきたり、日本語力にあまり差がないので言われたことを受け止めず、自分の意見に固執する場面も見られた。そこで日本人学生にピアレスポンス的な役割の相手として参加してもらった。その結果クラスの流れがリセットされ、後半にいい結果をもたらしたと思われる。また他の授業に追われ、準備不足が後半に見られた学生もいたが、最終的には資料も集められて独自のものが作成できた。今年度のレポートテーマは以下のようである。

学生番号	レポートのテーマ
S 1	結婚と恋愛は別ですか
S 2	子供に嘘をつくことは必要なのか
S 3	なぜダイエットするのか
S 4	「1日3回歯磨き」は歯磨き粉会社の戦略？－正しい歯磨きの回数はどれくらい？ －

* タイトルは原文のまま

4 次回への手立て

2007年度の場合は、日本語力・意欲も高く、発話も積極的に臨んだ学生たちで、次回このような状況が望めるとは思えない。しかし今年度いいクラスワークが展開され、2006年度の問題点と正しい展開でなされた時の効果の両面がわかり、結果的に何を今後していったらいいか見えてきたように思える。

それは①クラスのレベルを見据えた教員のクラス運営②互いの信頼関係を構築しておき、日本語力の差に臆さず活発にピア・レスポンスが行われるようなクラス環境の実施までの整備③学生の地域性から生じる特徴の把握とその対応策④本当に興味のあるテーマ探し⑤なるべくクラスの中で作業を完結させ、宿題は効果的に出すがあげられる。ピア・レスポンスを取り込んだ授業では日本語力があることも大きい要素だが、「学習への意欲」が一番大きい要素と思われる。

歯磨きに対するアンケート

私は今、徳島大学で勉強している留学生です。この度は日本語の授業での論文の作成のため、このようなアンケート紙を配るようになりました。頂いた回答は本来の目的以外には使用致しませんので、どうぞご協力お願いいたします。

* まず、以下の項目にお答えください。

A あなたの性別は？ 1. 男性 2. 女性

B あなたの年齢は？

1. 10~20代 2. 20~30代 3. 30~40代 4. 40~50代 5. その他 ()

C あなたの国籍は？ : _____

1. (1) 母国で「歯磨きは1日3回」という言葉を聞いたことがありますか？

① はい ② いいえ

(2) 聞いたことがありましたら、それはどこで、いつ頃でしたか？(ex: tvの広告で、小学生)

: _____

(3) なぜこう言われていると思いますか？(ex: 歯磨き粉会社の Marketing の一環。)

: _____

2. (1) 実際1日どのぐらい歯磨きをしていますか？

① 0回 ② 1回 ③ 2回 ④ 3回 ⑤ 4回以上

● 「①0回」と答えた方に伺います。

歯磨き以外の歯を守る方法を行っていましたら、お教えてください。

: _____

(2) その時期はそれぞれいつですか？(3回の場合: 朝起きてから、朝ごはんの後、寝る前。)

: _____

(3) 現状の歯磨きの回数で、歯のことで困っていますか(他は困ったことがありますか)？

① はい ② いいえ

● 「はい」と答えた方に伺います。

それは何ですか(他はでしたか)? Ex)虫歯

: _____

ご協力、どうもありがとうございました。

(恐れ入りますが、この用紙は 日までに 号のポストに入れていただければ助かります。)

参考資料 ②

2006年度アンケート結果 (13名中12名回収)

1. 「日本語4」は思っていたような授業だったか？ はい(12) いいえ(0)

2. 「レポートの書き方」の授業で、面白かったもの・役に立ったものは何か？その理由は何か？
 - ・ みんなでレポートの書き方を分析・勉強することは楽しかった。いい雰囲気勉強になった。今後の勉強と仕事の中には大きな役が立つ。授業を通じていろんな実用的な知識を身につけた。(eg 一番印象的なことは図書館の使い方と資料などの引用の仕方)
 - ・ 理系の勉強をしているので大学に入ってから論文を書くことはほとんどなかった。この授業では論文の書き方を学び、少し分かるようになった。将来の就職にも役立つと思う。
 - ・ レポートをこのような書き方をしたのは初めて。思想マップから第1・2稿、そして最後のレポートを書くまで、調べて使わなかった資料もたくさんあるし、足りなかったところもあると思うが、全ての過程を通じて一生懸命書けたので自分なりに満足している。特に第1、2稿を書いたことは最後に助けになった。
 - ・ 大学ではレポートを課せられることが多いので、この授業を通じてレポートの書き方についてもっとわかるようになり、大学での勉強に役立つと思う。
 - ・ 書き方の最初から最後までを教えてもらえてよかった。今では目標想定文のレポートは書いたことがなかったので、教えてもらえてよかった。
 - ・ 参考文献や引用文献の書き方も役に立った。
 - ・ 図書館での資料の探し方がわかるようになってよかった。
 - ・ 情報カードを作ることが役に立つと思う。(情報を集めることからレポートを書くまで)
 - ・ 今後レポートを書くときに自信を持って書けると思う。

3. 嫌だったこと・大変だったこと・難しかったことは何か？その理由は？
 - ・ 細かすぎる課題が嫌だったが、今考えてみたら役に立つ作業だったと思う。
 - ・ 長い文章を書くことは苦手だから、面白くないと思ったことはあった。でも無理やりでもこのレポートを完成させて勉強になった。
 - ・ テーマが自由に選ぶこと。テーマの幅が広すぎてなかなか決められない。
 - ・ レポートを書くこと自体。
 - ・ 最終レポートの次数がちょっと多いと思う。
 - ・ マングローブ林の例で勉強するのが大変だった。(資料を探すのが大変だった。)
 - ・ 自分で調べた資料を文章に引用すること。
 - ・ 最初はぼんやりした感じがあった。説明をしてもらってから分かった。
 - ・ 役に立つ資料を探すこと。図書館・インターネットでは資料がたくさんあるけど、どの資料が一番適切か、どういう風に引用するのか自分で判断し選ぶことは難しかった。
 - ・ テーマを選ぶこと。構想・マップなどを書いて、いろんなことを考えてからテーマを決まりました。
 - ・ 議論の形で書くレポート。日本留試を受けたころから2年ぐらいの間でこのような文章を1度も書いていなかった。普段のレポートに応用しない形として難しかった。

5. 授業について、次回へのアドバイス・質問・感想・いいたいこと等

- ・ もっと論文の例を見たらいいと思う。
- ・ いろいろなことが勉強になった。レポートの書き方は他の授業にとっても役にたつと思う。
- ・ 日本語は留学生の「第2外国語」科目として設定したのに、ドイツ語やフランス語の授業の時間帯でなぜ日本語科目がひとつもないのか。ぜひ来年の月曜7・8限で日本語の授業を設置してください。
- ・ 授業の内容がすごくいい。構成から書くまで勉強するのは詳しい。今まで書いたレポートの中でこの授業最後のレポートが一番いいかもしれない。
- ・ 次回はマングローブ以外の教材で勉強したい。(もっと学生が興味をもてること)。1学期間ありがとうございました。
- ・ 内容はいいと思うが、どうやって興味を持ってレポートを書けるかと思う。
- ・ 国へ帰ってもこの書き方でレポートを書きたいと思う。
- ・ 特になし。このままでもよい
- ・ 先生は非常にまじめで、時々要求が厳しいが、いい勉強になった。
- ・ 授業中にいくつかの小論文(100字)を書いたほうがいいのかと思う。
- ・ 難しかったが知識を身につけた。いい授業だと思う。

* 原文のまま

参考文献

池田玲子、館岡洋子(2007)「ピア・ラーニング入門 創造的な学びのデザインのために」ひつじ書房

館岡洋子他(2005)「協働学習における教師の役割と教室のデザインー創発を引き起こす内省について

考える」『日本語教育学会春期大会予稿集』P259~270

原田三千代(2006)「中級学習者の作文推敲過程に与えるピア・レスポンスの影響ー教師添削との比較」

『日本語教育』第131号P3~12

吉本恵子他(2005)「日本人の支援をうけた教室環境の改善ー作文サポーターとは何か」

『日本語教育学会春期大会予稿集』P95~99

西條美紀(2000)「弁証法的作文かていのための作文指導」『日本語教育』第105号 P91~100

徳井厚子(2002)「多文化共生のコミュニケーション 日本語教育の現場から」アルク

岡崎眸、岡崎敏雄(2001)「日本語教育における学習の分析とデザインー言語習得過程の視点から見た日本語教育」凡人社

田中望(1988)「日本語教育の方法ーコースデザインの実際」大修館